

自己表現活動に意欲的にとりくむ生徒の育成

～「英語で日記を書くこと」を通して～

1. 設定理由

「自己表現活動」とは、「自分のことなど実際のことを表現する活動」と捉える。授業では、できるだけ多く「自己表現活動」を取り入れている。なぜなら、英語で自分のことを表現できることこそ、英語学習する上での一番の楽しさであり喜びであるからである。家庭学習においては、数年前から「毎日3行、英語で日記を書くこと」を行っている。

新学習指導要領に「実践的な運用能力を養うため言語活動を行わせる。」とある。そして「書くこと」について、「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」という新しい文言が付け加えられている。これらの点から、「英語で日記を書くこと」は最適な言語活動のひとつであると考え、「英語で日記を書く」ことについてあらためて研究し、今後の指導に役立てたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) 英語の授業で、自分や相手のことについて質問したり答えたりする言語活動を多く行えば、自己表現に有用な英語表現を身につけ、英語で自己表現する意欲を喚起できるだろう。
- (2) 英語で日記を書く活動において、アドバイスを工夫すれば英文を作る力が身につくだろう。また、ていねいなコメントを返すことで、自己表現への意欲を高めることができるだろう。

3. 研究内容

- (1) 授業での自己表現活動の実践
- (2) 英語の日記の文章の分析と考察
- (3) 自己表現活動への生徒の情意面の分析と考察

4. 結論

(1) 授業で学習した自己表現文が、英語の日記で使用されている。言語活動により有用な英語表現を身につけていると考えられる。また、授業の言語活動での自己表現について80%前後の生徒が肯定的な気持ちをもっており、意欲が喚起されたことがわかった。

(2) 生徒の英語日記において、単語や文法の誤りについて指導することにより、その多くのアドバイスが次に生かされ、正しい英文を書くことができるようになることが明らかになった。また、日記での自己表現への意欲が高まっており、こちらからていねいなコメントを返すことも一因であることがわかった。

安房支部